

今月の社長

Vol.7

MONTH THE PRESIDENT OF A COMPANY

一人でできることには限界があります。
そこに気づいた時、自分が変わりました。



荒木三希子さん(35歳)

有限会社 アクシエ 代表取締役

札幌生まれ。休日は家族で温泉の日帰り入浴に出かけ、家族との時間を大切にするほか、趣味のジャズピアノ、スープカレーの食べ歩きなどで楽しむ。

事務職に限界を感じて退社 一生できる仕事ってなに？

商業高校を卒業後、事務職として就職。5年間を過ごすうちに、自分の立場でできる仕事の範囲に限界を感じ、出産を機に退社。1年半ほど子育てに専念するが、社会復帰を目指した時、厳しい現実と直面した。「いざ探すと仕事がないんです。ワープロ検定の資格を生かし、在宅でキーオペレーターをしていましたが、それも限界があり、派遣会社に登録。その後、契約社員として2年半ほど働いたんですけど、やっぱり自分の立場でできる仕事に限界があって…。一生できる仕事はないか、一線に立てる職ってなんだろうと考えました」と語る荒木さん。そこで父親が不動産関係の会社を経営していたこともあり、会社を手伝いながら独学で宅建を取得する。「国家資格をと考えた時に一番身近な資格が宅建だったんです。営業の仕事もやってみてみたら、さらに父の仕事に近いを見て、不動産の仕事は

女性が安心して働ける 環境づくりをしていきたい

不動産知識はあっても肝心の建物を見る目がない。そう感じた荒木さんは父親の会社を辞め、注文住宅メーカーの不動産部門の営業として入社するが、運悪くその会社が倒産。それをきっかけに平成14年、アクシエを設立した。当初は気持ちがあがって子供を預けていたと振り返る。「働くために子どもを預けたらお金がかかり、さらに働けばまた費用がかさむ。社員も契約のせいか長続きしない。これはまずい！」と。そして気づいたのが家族、会社にとって自分の代わりはいない。でも一人で頑張るには限界があり、人は互いに助け合っているんだということ。そう思った時、自分に足りないものが見えてきた。そのひとつが明確なビジョン。「大きな目標は不動産を通じて北海道の人、企業に喜びを提供すること。また、子どもがいてもワークシェアリングなど工夫すれば仕事は続けられます。だから働く場、女

This month the president of a company

世界でただ一つの置物です!

「陶器製のカエル」

「人、仕事が帰ってくる」という願いを込め、お母さんをお願いして作ってもらったカエルの置物。背中にあるアクシエのロゴマークがポイント!

